

幼稚園用

家庭教育学習資料

平成29年度改定

語り合いを通じた親育ち



家庭は教育の原点

家庭は、子どもの人格形成を担う最も基礎的な場です。親の責任を自覚し、家族の深い愛情と、時には厳しさを持って思いやりのこころを育みましょう。

- 1 子どものよさを見つけ、子どもに自信を持たせましょう。
- 2 親は子どもに「してはいけないこと」を責任を持って教えましょう。
- 3 家族の一員としての役割を子どもに持たせましょう。

滋賀県教育委員会

家庭教育学習資料を活用した 親育ち・子育て学習講座

子育ては悩みの連続

- 交友関係
- しつけの仕方、叱り方
- 幼稚園での集団生活
- 親同士の人間関係
- 遊びの内容
- 子どもの変化への対応等

語り合い
学び合い

親育ち・子育て学習講座

家庭教育学習資料

- 親自身に関する課題
- 親子関係に関する課題
- 親子と地域との関係に関する課題

◎参加者自身や子どものエピソード、悩み等を本音で語りましょう。
◎他の親の話にもしっかりと耳を傾け、子どもの様子と重ね合わせ、親として何が
できるかを考えてみましょう。

実践

「親育ち」

- 子どもの個性や特質を子どもの様々な出来事やエピソードから把握し、理解する中で、子どもとどのように関わり、接していくかを学ぶ。
- 子どもの小さなトラブルやエピソードに付き合いながら、子どもの成長に伴って生ずるトラブルに、子どもが独立するまでの間、親として付き合っていく決意と姿勢を形成する。
- 自己および家族の長・短所を認識し、長所を生かし他の親、家族に貢献できることを見出す。また、短所を支えてくれる人間関係を築く。

■ テーマ設定について

親の悩み

交友関係

- 乱暴である。(叩く、物を放る、蹴る等)
- おとなしくて他の子と遊べない。
- 特定の子としか遊べない。
- わがままで協調性がない。よく〇〇ちゃん嫌いと言う。
- 友だちに意地悪されたときよく言う。
- 友だちにえらそうな言い方をする。
- 勝手に物を交換してくる。

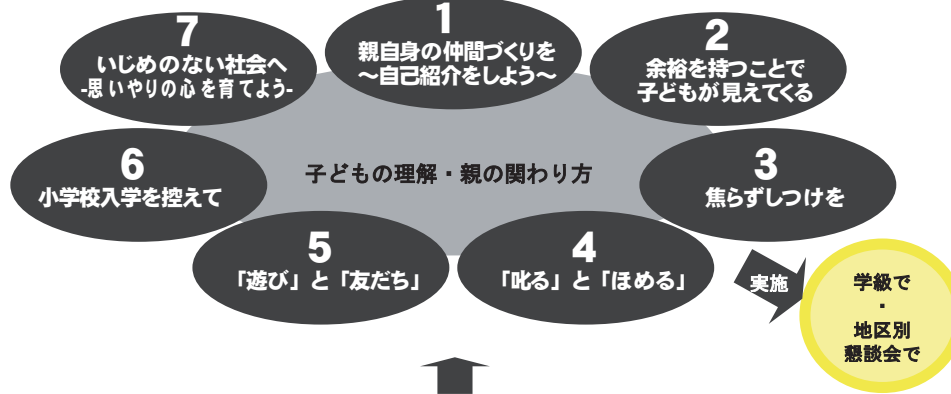
親同士の人間関係

- 親しくない親を敬遠する。
- グループを作り、陰で他の親子を中傷する。
- 親同士が親しくないと、子ども同士が遊べない。

しつけの仕方 叱り方

- 親の言うことを聞かない。
- 大声を上げて泣き叫んだりする。
- 弟や妹をいじめる。
- 話をしない。
- 絶対自分の言い分を通そうとする。悪かったとは認めない。
- どのように声をかけてよいかわからない。
- 泣く子のあやし方がわからない。
- 子どものしていることが待てない。
- 親の感覚で叱ってしまう。
- 嘘を平気でつく。

テーマ



子どもの姿と親の留意点

この時期、子どもは、それまで家庭で培われた人間関係や興味・関心を、幼稚園をはじめとする新しい人間関係の中に展開させていきます。自分の好きなことにはどんどん挑戦しやり遂げようとするので、いろいろな遊びをのびのびと体験させて、自主性や自信、集中力、友だちと関わる力を身につけさせたいものです。

一方で、自己表現や人の気持ちの理解はまだ十分にはできないので。友だちとのいざこざなども一時増加します。ときには嘘をついたりもしてしまいます。タイミングをうまくとらえて、してはいけないことやその理由をきちんと繰り返し伝えることで、徐々に自分を制御できるようになり、思いやりの気持ちも身につけてきます。

親の方でも社会のルールとして何を教えるか、きちんと考えておきたいものです。この時期は、個人差も大きいので、子どもの様子をよく見て理解し、その子に応じた支え方を考えるとよいでしょう。

親自身の仲間づくりを ～自己紹介をしよう～



親自身が人とのつき合いが得意でないと、子どももなかなか友だちが
できにくいと感じています。
最近、親同士が仲良くないと、子ども同士も深いつき合いが
できなくてちょっと困っています。

子どもの友だちについて、なるべく口をはさみたくはないのですが、
ついというさくってしまいます。
親同士の関係もあるので、知らず知らずに私が子どもの友だちを
選んでいるような気がします。



あなた自身のことを語ってみましょう。
あなた自身の悩みや家庭教育における悩み等も併せて語ることで、
参加者の皆さんと悩みを共有することができます。

●あなた自身の悩みや家庭教育における悩み、困っていること。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

◆私も同じことで悩んでいるわ
こんなことで悩んでいる人もいるんだ —— (感じたことを書きましょう)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

自分だけが問題を抱え込んで悩んでいるという気持ちにおそわれることはだれにでも
あるものですが、あなたと同じ悩みを持っている人が、仲間の中にもきっといるはずです。
悩み、考えすぎると、明日からの生きる気力もだんだんとなくなってしまいます。ですから、
親同士が集まって話をする機会を持つことはとても大切なことです。
困ったときは「助けて!」と声をあげることも大切です。そのためにも、日頃から親同士
がお互いを知り、悩みを共有できる仲間づくりをしていきましょう。

テーマ1 親自身の仲間づくりを ～自己紹介をしよう～

【ねらい】

自己紹介を通してお互いの家族・親子関係や悩み等を知り、それぞれの人々が何らかの悩みを抱えながら子育て、家庭教育を行っていることに気づく。また、悩んだり困ったりしているときに、「助けて」と言える人間関係づくりを進める。

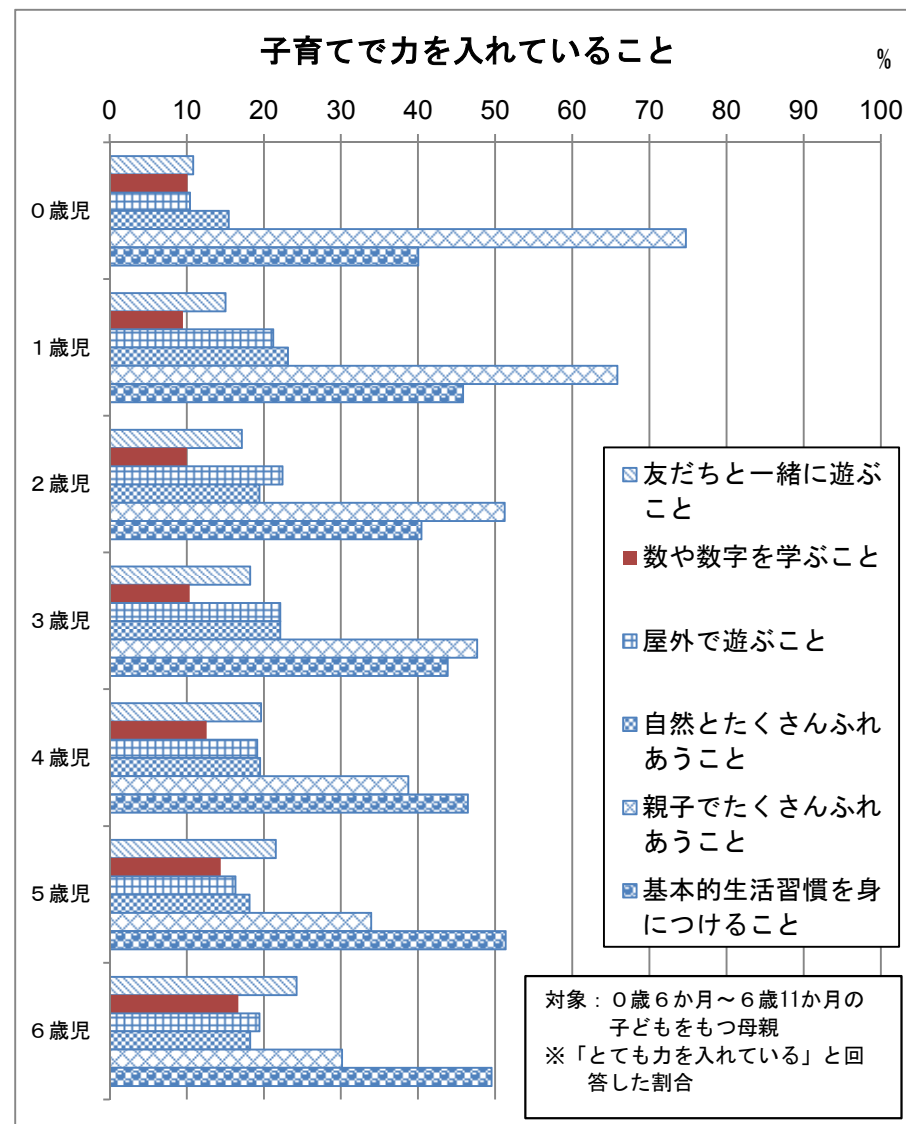
【活動の流れ】

- 1 事例を読み、親同士の関係が子どもにも影響することがあることを知らせ、親同士が仲良くなるために、まず自己紹介をしようと伝える。
- 2 ファシリテーターまたは進行役が自己紹介する。
- 3 話しやすくするためにワークシートに伝えたいことを書く。(悩みや困っていること、家族や子どものことなど)
- 4 参加者が自己紹介する。自己紹介を聞きながら、共感したことや発見したことをワークシートに書く。
- 5 自己紹介で出た悩みや困っていることをファシリテーターが簡単にまとめた後、参加者が共感したことや発見したことを話し合う。
- 6 話し合いのまとめをする。

【支援のポイント】

- 参加者が自己紹介をしやすいようにファシリテーターが、まず初めに自己紹介を行い、場の雰囲気を和らげる。そのときに、子育てや家庭教育に関してのエピソード、トラブル等を交える。
- 最初から深く自分を語る人もいれば、自分を語りたがらない人もいる。無理矢理語らせることのないように配慮する。
- 親の関係が子どもの遊び友だち等に影響を与える場合があることを伝え、親の関係づくりの重要性を伝える。
- 参加者が悩みや困っていることを素直に話された場合は、共感の態度を示し、次からも話しやすくする。
- 困ったときは遠慮せずに相談することが、お互いをつなぎ、仲間づくりにつながっていることを付け加える。

【参考資料】



【第5回幼児の生活アンケート(ベネッセ教育総合研究所 2015)】

2 余裕を持つことで 子どもが見えてくる



私も含め、今のお母さん、お父さん方は余裕がなく、冷静に物事を見られない。そのため、必要以上にせかせかと子どもを叱り、最後には自己嫌悪になる。それに、子どものせいで自分の生活が犠牲になっているとの思いもある。自分の子どもに対しては、つきつくなったり叱らなくていいのに叱ったり。



たまには、息を抜いて、自分の好きなこととして、余裕のある子育てをしていきたいなあと思う。どうすれば、余裕を持って子どもとつきあっていけるのでしょうか。本当に、子育てって難しいなあ。



あなたは、子育てのストレスをどのように解消していますか。
自分の時間のつくり方や、心身のリフレッシュの仕方などを書きましょう。

.....

.....

.....

.....

◆ 参考となる時間のつくり方、ストレス解消法 ◆

.....

.....

.....

.....

子育ては大事ですが、一日中、わき目もふらず子どものことだけを考えていては、疲れてしまいます。完璧な親になろうと無理にがんばるとイライラがつつのり、子どもにもそのイライラが伝わっていく場合があります。大変な子育てだからこそ、自分の時間をつくり心を健康に保ち、子どもの気持ちを柔軟に受け止めて関わっていくことが大切ではないでしょうか。

POINT

テーマ2 余裕を持つことで子どもが見えてくる

【ねらい】

大変な子育てだからこそ、自分の時間をつくり、心を健康に保つことが子どもを愛し、子どもとしっかりと向き合うことにつながることを知るとともに、自分にあった時間のつくり方やリフレッシュの仕方について話し合いを通して見つけていく。

【活動の流れ】

- 1 事例を読み、親同士が余裕を持って子育て、家庭教育を行っていくためには、親自身が心身ともにリフレッシュする必要があることを伝える。
- 2 参加者の心身のリフレッシュの仕方、自分の時間のつくり方をワークシートに書き発表する。
- 3 参加者は、発表を聞きながら参考となる、また、実際にやってみたい時間のつくり方やストレス解消法をワークシートに書く。
- 4 参考としたい時間のつくり方やストレス解消法を出し、話し合いを深める。
- 5 ファシリテーターが、話し合いのまとめをする。参考となる時間のつくり方やストレス解消法等を実践する意欲がわくようにする。

【支援のポイント】

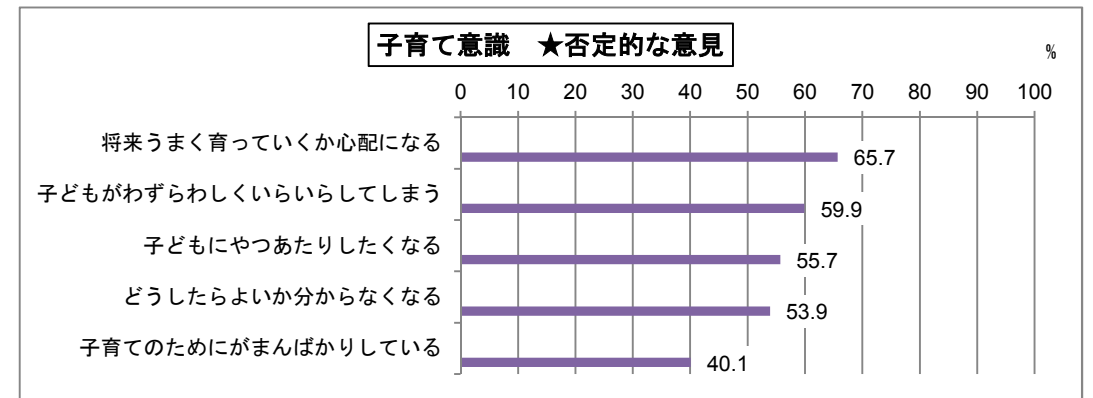
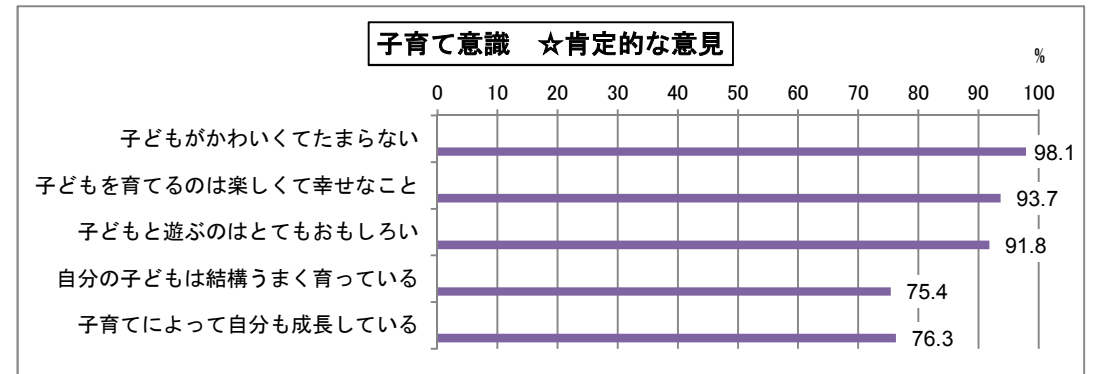
- 人によって時間のつくり方やリフレッシュする方法には違いがあり、どんな些細なことでもいいので、自分の時間がもてたことや気分がよくなったこと等を考えられるようにする。
- 自分の時間をつくりたくても、また心身のリフレッシュをしたくてもできない要因にも目を向け、阻害要因を取り除いていくために必要なことについても話し合うようにする。
- 子育て中に、わき目もふらず子どものことだけを考えては疲れてしまう。リフレッシュのために自分の好きなことをすることが、決して自己中心的で悪いことではなく、親が幸せで笑顔でいる家庭でこそ、子どもも幸せを感じられることを知らせるようにする。
- 自分の時間がもてない時には、保育サポーターや一時預かり等のサービスやお互いが子どもを預かり合う相互支援等があることも知らせるようにする。

【参考資料】

◇心身ともに健康であるために必要なこと

- よく食べること
- 十分に睡眠をとること
- 活動的に動くこと
- 毎日数分でもひとりで過ごす時間をもつこと
- 新しいことを学び体験すること
- 楽しむこと
- 他の大人とともに時間を過ごし、話をする

【「完璧な親なんていない！」より（ひとなる書房）】



対象：1歳6か月～6歳11か月の子どもをもつ母親

【第5回幼児の生活アンケート（ベネッセ教育総合研究所2015）】

3 焦らずしつけを



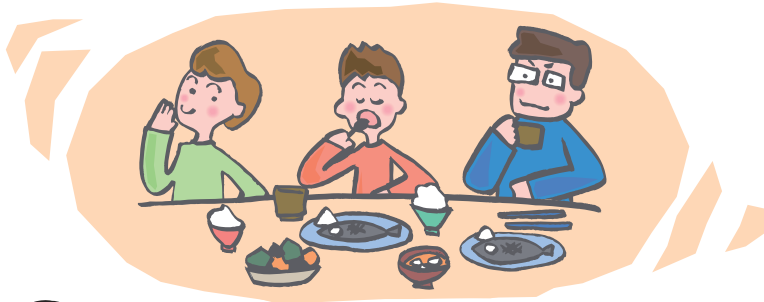
今晚のおかずは和食。焼き魚に野菜の煮物、みそ汁です。



今晚のおかずは、焼き魚だよ。
新鮮でとっても栄養があるよ。早く食べなさい。



焼き魚かあ。骨がいっぱいあるからいやだよ。
ぼくの好きなカレーがいいな。



「困った子ね。
一応カレーも買ってあるんだけど、それにする。
すぐに、お湯を沸かして作ってあげるからね。」

「食事は楽しく」がモットー。子どもにおいしく食べさせることを重視する。子どもが喜ぶカレーにかえ、メニューにはいやがるものはなるべく出さない。



「何を言ってるんだ。子どもは親が作った
おかずのことに口を出さないの。
文句を言わずに、さあ、早く食べなさい。」

子どもが好きなものを食べたいと言っても取り合わない。我慢して食べさせる。栄養やしつけを重視する。



「今日は新鮮なサバが安かったの。旬のサバは
おいしいよ。栄養があって、お肌もピカピカに
なるんだよ。今度、またカレーにしようね。」

今度はカレーもしてあげるからと、今日の焼き魚や野菜の煮物の良さを話す。そして、親子で対話をし、子どもを納得させる。

あなたのご家庭で、お子さんが左記のような反応をした時、どのように対応されますか。
親①～③のどれに近いですか。
また、しつけ全般で気をつけておられることはどんなことですか。

.....
.....
.....
.....

◆ 参考となるしつけのポイント ◆

.....
.....
.....
.....

しつけは大切ですが、しつけなくてはという気持ちから、親がつい声を荒げたり、手を出してしまったり、親自身その行動に歯止めがきかなくなってしまう場合があります。子どもたちの要求に迎合せず、繰り返し親としての考えをしっかりと伝えましょう。しつけには、様々な工夫を考えながら、繰り返し繰り返し伝えることが大切です。

POINT

テーマ3 焦らずしつけを

【ねらい】

しつけの仕方等について事例を通して話し合い、しつけの大切さや子どもにあったしつけの仕方のポイントを学ぶ。また、しつけをするときには子どもとじっくり向き合い、子どもの個性や特質を理解することが必要であることを知る。

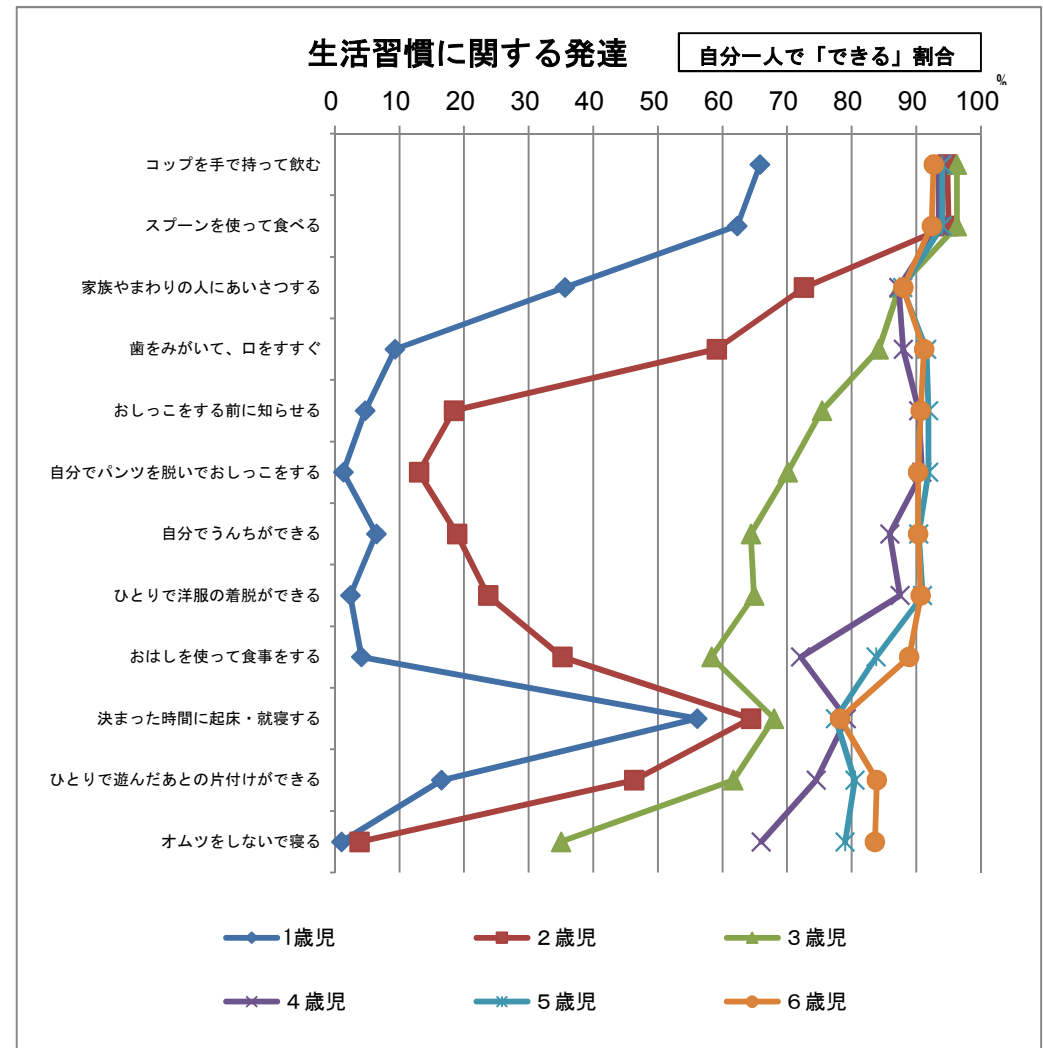
【活動の流れ】

- 1 事例を読み、親の3つの対応の中から、参加者がどれに近いかを選び、その理由をワークシートに書く。
- 2 参加者が選んだ理由を発表し、話し合う。
- 3 しつけ全般において、気をつけていることをワークシートに書き、話し合う。
- 4 話し合いから参考となるしつけのポイントを書き、参加者同士で交流する。
- 5 ファシリテーターがまとめ、参加者自身に合ったしつけのポイントを実践できるように、意欲づけをする。

【支援のポイント】

- 事例の会話を読むだけでなく、ファシリテーターが子ども役か親役となり、できる限り場の雰囲気を出すように努める。
- しつけは大切であるが、しつけなければという思いが強すぎると、親自身の行動に歯止めがきかなくなり、児童虐待につながるおそれがあることを押さえる。
- 子どもは家庭での約束やルールを守ったり破ったりしながら、成長していくものであることを知らせる。
- 事例の食事のしつけのみに話が終始しないよう、しつけ全般に話し合いが広まるように配慮する。
- しつけをするときには、子どもの特質をよく理解し、子どもにあった方法でしつけをすることの大切さを知らせる。
- 問題に見える子どもの行動も、親や大人が丁寧に対応することにより、個性として育つようになることを押さえる。

【参考資料】



対象：満1歳以上～6歳就学前の幼児をもつ保護者

【第5回幼児の生活アンケート(ベネッセ教育総合研究所 2015)】

4 「叱る」と「ほめる」



親子お楽しみ会がありました。簡単な手作りお昼ご飯の後、デザートとお菓子が出ました。我が子は、ご飯はほとんど食べなかったのに、デザートになると急に元気になり、真ん中にあった大皿をとって、部屋のすみへ行き、独り占め。デザートを食べ始めました。デザートを食べたい子が、その周りに集まり、ワイワイガヤガヤやり始めました。



私にもちょうだい。

いやだよ～。
全部食べたいもん。

独り占めしてずい。
これは、みんなのものよ。

我が子はだれにもデザートをあげず、独り占め。

たまりかねて、「ダメでしょ。これは、みんなのものよ。早く、わたしなさい。」

ワァ～。ワァ～。

叱ったらワァッと泣き出しパニック状態になってしまいました。

叱る派

やっぱりみんなのものはみんなのものだし、そのルールは絶対守らせなきゃだめ。きつく叱ってでも止めさせるべきよ。それに、その場で叱らなきゃ、意味がないと思うわ。

叱らない派

ご飯もほとんど食べていないから、お腹が空いていたんじゃないの。少し食べさせてあげたらどうか。それに、みんな楽しそうにお楽しみ会をやっているんだから、声をはりあげて叱る必要もないと思うわ。

後で叱る派

確かにいけないんだけど、パニック状態の時に叱り続けても逆効果だと思うわ。その場の雰囲気もあるので、二人きりになった時に言い聞かせるわ。

あなたは、お子さんが左記のような反応をした時、どのように対応されますか。どれに近いですか。

.....

.....

.....

.....

◆ 参考となる叱り方・ほめ方のポイント ◆

トラブルは「子育て」のキーポイントです。子どもが自分の思いを通すために理屈を言う、駄々をこねる。こんな時、間違っていることは間違っていると、毅然とした態度がなければ、子どもは生活や人生で判断する基準を見失ってしまいます。子どもの気持ちを尊重すること、親が不合理なことへの判断を示すことは別のはずです。子どもが何かを起こしたとき、大人のとり纏いで事を荒立てずにやり過ごしてしまうのか、それとも、泣いたりわめいたりしながらも、そこで何かを学び取るチャンスを子どもに与えられるのか、この両者の違いは、子どもが人との関わり方のベースをつくる上で、大きな影響を持つことになるでしょう。

POINT

テーマ4 「叱る」と「ほめる」

【ねらい】

事例を通して叱り方やタイミングについて話し合い、叱る意味や叱り方を考えるとともに、ほめ方やほめるタイミングについても自分なりのポイントをつかむことができる。

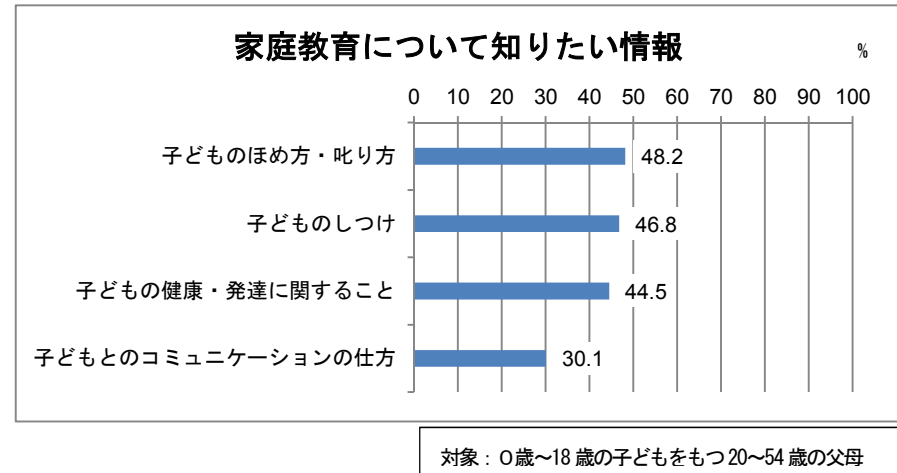
【活動の流れ】

- 1 事例を読み、「しかる派」「しからない派」「後でしかる派」のどれに近いかを経験から考え、理由も含めてワークシートに書く。
- 2 ワークシートに書いたことを発表し、話し合う。
- 3 話し合いを聞きながら、叱り方やほめ方のポイントだと思うことをワークシートに書く。
- 4 ワークシートに書いたことを交流し合う。
- 5 ファシリテーターが、まとめをする。ポイントを実践する意欲がわくようにする。

【支援のポイント】

- 参加者が事例の場面を想像しやすいように事例を読む。または、子ども役と親役に分かれて役割演技により場の雰囲気を出すように努める。
 - 事例は叱ることであるが、話し合いの中でほめることにも話が展開するように配慮する。
 - 現在はトラブルを起こさせないように前もって親が対処することが多いが、ある程度のトラブルは子育て上必要であることを知らせ、トラブルを避けることだけでなく、トラブルが起きたときにどのように子どもと向き合っていくかを学ぶことの大切さを知らせる。
 - 叱る時に感情で叱っていることがないか、また子どもに叱っている真意が伝わっているかなど、一度振り返ってみる必要があることを知らせる。
 - 子どもをほめる時に、親の思いに沿った行動をした時だけになっていないか、子どもが自信を持ったり、認められたという感情を持ったりするようなほめ方ができているかを振り返ることが大切なことを伝える。
- また、親の思いにあった行動をした時だけほめていたのでは、子どもが自分の気持ちを抑え、親の顔色を見ながら親の思いに合うように行動しようとし(しやめる「よい子」)、疲れしまうこともあることを伝える。

【参考資料】



【平成28年度文部科学省委託調査「家庭教育の総合的推進に関する調査研究」】

子育て場面での意識

	「よくある」の%
○子どもが成長したと感じる	63.2%
○子どもが親に対して思いやりのある言葉や思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる	45.0%
●子どもを感情的に叱ってしまう	23.4%
●子どもに干渉しすぎてしまう	18.5%

【第4回子育て生活実態基本調査（ベネッセ教育総合研究所2011）】



【滋賀県家庭教育啓発ポスター2017】

三行詩コンクール入賞作品より抜粋

- ◇勉強できない スポーツできない 字が汚い それでもほくは何かもっている きたいしてよ お母さん
 - ◇家では靴を並べるのが決まり いやというほど怒られた 人の家に行ったとき 立派だとほめられた
- 【楽しい子育て全国キャンペーン 三行詩コンクール 2017より】

5 「遊び」と「友だち」



多くの友だちと遊ばせたいのですが、いつも同じ子とばかり遊んでいます。家では大きな声ではしゃいだり、妹とふざけ合ったりしているのですが、外ではおとなしくなかなか多くの友だちの輪に入っていくことができません。これが、わが子の特徴だと認めてあげたいのですが、将来のことを考えると心配でたまりません。このままでいいのでしょうか。



家庭外ではおとなしく、特定の子としか遊びませんが、それでいいのでしょうか？
あなたの考えに近いのはどれですか。

そう思う

少しそう思う

あまりそう思わない

そう思わない

子どもの特徴と
思ってあまり気に
しなくてよい。

子どもの特徴には、「気が弱い」「つい手が出る」等いろいろあります。お子さんの交友関係で気になること、また、兄弟姉妹関係や友だちの中でどのように遊ばせればよいとお考えですか。思いつくままに書きましょう。

.....

.....

.....

◆ 望ましい交友関係のポイント ◆

.....

.....

.....

この時期は、友だちとの遊びにおいて個人差が大きく、多くの友だちと遊ぶことを楽しめる子と、特定の友だちとの関係でしか安定を得られない子どもがいます。多くの子と遊ばせるように無理強いをすると、子どもはストレスをためる場合があります。子どもの興味・関心を引き出し、楽しみが共有できる友だち関係がつかれるように支援しましょう。また、その友だち関係の楽しさを経験できるようにしましょう。

POINT

テーマ5 「遊び」と「友だち」

【ねらい】

子どもの遊びや友だちとの関わり方で気になることを交流し、子どもの個性や特質を理解した上で、親としてどのように関わるのが子どもの成長にとって大切なのかそのポイントを学ぶ。

【活動の流れ】

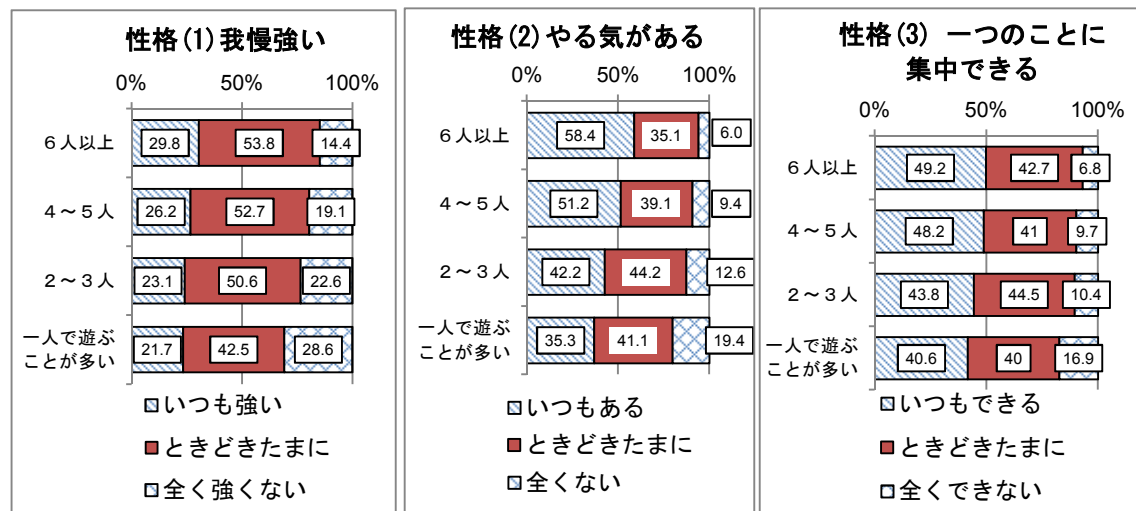
- 1 事例を読み、特定の子としか遊ばないことについての思いを4つから選び、理由をワークシートに書く。
- 2 ワークシートに書いたことを発表し、話し合う。
- 3 いろいろな特徴を持つ子どもの交友関係で気になることや友だちや兄弟間での遊びについての思いをワークシートに書く。
- 4 気になることや遊びについての思いを交流して、望ましい交友関係のポイントをワークシートにまとめる。
- 5 ワークシートにまとめたポイントを交流し合う。

【支援のポイント】

- 遊びや友だちのことについての悩みを素直に出せるような場の雰囲気をつくる
- 交友関係で気になることや遊ばせ方については、普段の様子を思い描き、思いつくまに書くようにさせる。
- 子どもにはそれぞれ個性や特質があり、遊びの様子をじっくり見ることにより、子どもの特徴に気づいていくものであることを知らせる。
- 楽しみが共有できる友だちとの遊びを通して、創造力や集中力が養われることを知らせる。
- 多くの友だちと多様な遊びをすることは大切であるが、無理強いをする子どもはストレスをためる場合があることを知らせる。

【参考資料】

◇幼児の性格と園で一緒に遊ぶ友だちの数



【幼児期における身体活動の課題と活動の意義 文部科学省 2011】

◇幼児期の集団遊びの効果

幼児期は、多くの友だちと関わりながら遊ぶことを通して、ルールを守り、自我を抑制し、コミュニケーションをとり合いながら、協調・協働する必要があることを学んでいきます。また、5、6歳になると、リーダーになる幼児も増え、グループ内での役割を意識した行動もとれるようになります。

子どもが成長していく過程においては、保護者、家族だけでなく、同世代の友だちや集団との交流が不可欠です。体を動かす遊びや運動、特にルールのある遊びやスポーツなどは、社会性を育てる契機を与えてくれます。また、体を動かして遊ぶことは、爽快感や達成感を味わいながらのストレス発散にもつながります。

【幼児期運動指針ガイドブックより抜粋 文部科学省 2011】

6 小学校入学を控えて

間もなく小学校入学を迎えます。

これまでの保育所(園)や幼稚園での生活と変わる部分、登下校の安全、友だち関係など、子どもを取り巻く環境も大きく変わります。

そこで、小学校入学へ向けての期待や気にかかっていることなどを出し合ってみましょう。



- 1 子どもの小学校入学を控えて、どんな期待や気にかかっていることがありますか。また、今、心がけていることがあれば書きましょう。

- 2 話し合いの中で気づいたこと、参考になったことを書きましょう。

POINT

子どもの小学校入学は、子どもの成長を実感する中で、自分自身の子育てを振り返ることのできる機会です。

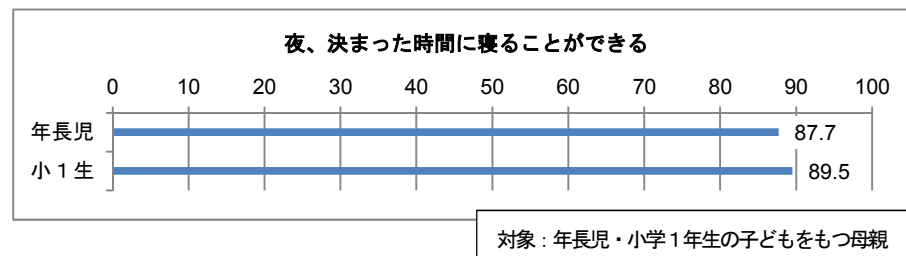
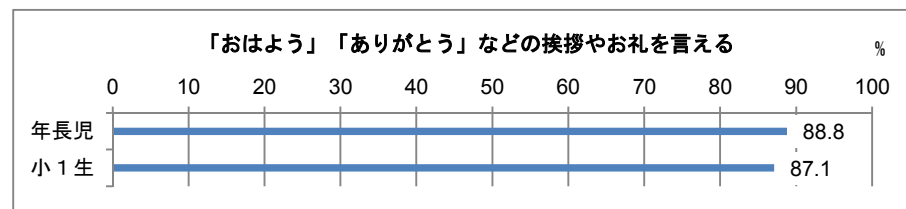
小学校入学を控えての期待や気にかかっていることを伝え合い、お互いを認め合い、経験などを学び合いながら、保護者同士が支え合う関係をつくっていききたいものです。

そして、子どもが小学校入学に希望がもてるような会話や生活を心がけましょう。

幼稚園版 テーマ6 小学校入学を控えて	
【ねらい】 ◇子どもの小学校入学へ向けての願い等を伝え合うことを通して、今後の子育て、家庭教育に生かせることを見いだすと共に、保護者同士がお互いに認め合い、支え合うことができるようにする。	
【活動の流れと支援のポイント】	
1 自己紹介 および アイスブレイク	○4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。 (10人までであれば全体で話してもよい) ○グループ編成の時には下記のような工夫をする。 ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。 ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。 ○簡単な名札や席札をつくり、名前を覚えやすいようにする。 ○グループ内で進行役、記録役、発表役を各一人決める。
2 事例からテーマについて知る	○ワークシートの事例を読み、小学校入学を控えての思い(期待・不安・心がけていること等)をワークシート1に書く。 ・参考資料は、進行役の資料であり、参加者に対し示す必要はない。
3 語り合いの約束を確認する	○語り合いに入る前に、約束を確認する。 ・ここだけの話にする。(個人情報に関することについて) ・相手の考えを頭ごなしに否定しない。 ・自分だけが長く話すぎない。 ・発言を強要しない。
4 語り合い活動	○自分が書いたことを、グループ内で伝え合う。 ・小学校に子どもがいる親からアドバイスや知っていることなどを伝えてもらうようにする。 ○話し合いから気づいたことや参考になったことを記入する。 ・時間に余裕があれば、数人に発表してもらう。
5 まとめ	○語り合いのまとめをする。 ・右ページの資料を掲示または配布したりして、子どもとの会話や関わりの中で親が心がけたいことなどについて確認し合う。
6 ふりかえり	○語り合った内容をふりかえり、活動を閉じる。

【参考資料】

◇幼児期から小1期の学びの育ち／生活習慣



【幼児期から小学1年生の家庭教育調査(ベネッセ教育総合研究所2016)】

◇小学校入学までに親として心がけたいこと

1 子どもが小学校生活への期待感をもてるようにする

「小学校では、たくさんの友だちといろいろなことができる」など、小学校は楽しいという前向きな言葉で期待感を持つことができるようにしましょう。

2 親が心配しすぎない

持ち物の準備や朝の支度など、親が口や手を出しすぎると、なかなか自立できません。おおらかに見守ることも必要です。

3 子どもの話を聞く

子どもの話をしっかり聞くことが基本です。聞き上手、ほめ上手を心がけましょう。話を聞いてもらえると、子どもは大切にされていることを実感し、安心します。

4 生活のリズムを整える

「早寝・早起き・朝ごはん」に努め、規則正しい生活リズムを保つことで、楽しい気持ちで通うことができるようにしましょう。

【参考：県内小学校入学説明会資料等】

7 いじめのない社会へ —思いやりの心を育てよう—

これから小学校、中学校と進んでいく子どもをもつ親にとって、「いじめ問題」は、大きな不安の一つです。ついつい過敏になり、園での出来事や子どもと友だちとのささいないさかひまで気になってしまうこともあります。子どもは、親だけでなく友だちやいろいろな人の中で育っていきます。自分のことが大好き、そして、周りの人も大好き、と思える我が子に育てるために、わたしたち保護者は何ができるのか考えてみましょう。

幼稚園で、たつやくんから髪型のことでからかわれたみほさんは少し不機嫌。でも、お母さんたちのお迎えで近所の公園まで帰ってきた、みほさん、たつやくん、まさしくんは、いつものように3人で仲良く遊びはじめました。お母さんたちもいつものように母親同士の話に花が咲いています。

(たつや) 「つぎは、ブランコしよう。」

3人は、ブランコへかけ出しました。

公園にひとつだけあるブランコには、みほさんが一番乗り、早速ブランコにこしかけてこぎはじめました。

(まさし) 「つぎは、ぼくにかわってよ。」

(たつや) 「だめだよ、ぼくが先にならんだんだよ。」

(みほ) 「まだ乗ったばかりだからダメ。」

気持ちよくブランコをこぎ始めたみほさんも、2人がけんかをはじめそうなのでかわってあげることにしました。

(みほ) 「じゃあ、まさしくんにかわってあげる。」

ところが先にならんでいるたつやくんは納得できません。3人はもみ合いになってころび、みほさんは泣き出してしまいました。

様子を見ていたお母さんたちがあわててかけよりました。そして、それぞれに「ごめんなさいは。」と我が子に言いました。

3人は、少し不満げな顔で「ごめんなさい。」を言って、家へ帰りました・・・。



参考：栃木県親学習プログラムアレンジ版 (P9)

3人は、少し悲しい思いをしましたが、こういう出来事を通して子どもは成長していきます。「ごめん」のあとでもまだ少し不満そうな3人の子に、あなたなら家に帰った後どんな声かけをしますか。だれかの親になったつもりで書いてみましょう。

の親

- 1 子どもの、友だちとのトラブルや兄弟げんかに、うまく対応できたことや、反対にうまく対応ができずに困ったことなどがあれば書きましょう。

- 2 話し合いの中で気づいたこと、参考になったことを書きましょう。

POINT

子ども同士のけんかやトラブルは、子どもの思いやりの心を育てるチャンスです。じっくりと子どもの話に耳を傾け、その思いに共感することや、相手の気持ちを理解しようとする姿を認めていくことは、子どもの自己肯定感につながっていきます。「ごめんなさい」はゴールではありません。ごめんなさいを言う経験を通して、子どもがしっかりと成長できるような声かけに心がけましょう。いじめのない環境を子どもたちに与えるには、私たち親の力、毎日の行動が重要です。

幼稚園版 テーマ7 いじめのない社会へ 思いやりの心を育てよう

【ねらい】

◇子ども同士のトラブルへの関わりを見つめ直し、トラブルを通して子どもが成長していったことなどを交流することで、子ども同士の交流はささいなトラブルであれば、それは我が子の思いやりを育てるチャンスでもあることを再確認するとともに、排除ではない共感の関係づくりがいじめのない社会へつながっていくことについても考えられるようにする。

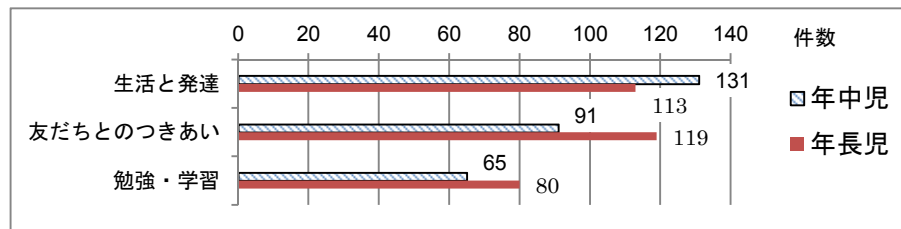
【活動の流れと支援のポイント】

1 自己紹介 および アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none"> ○4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。 (10人までであれば全体で話してもよい) ○グループ編成の時には下記のような工夫をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。 ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。 ○簡単な名札や席札をつくり、名前を覚えやすいようにする。 ○グループ内で進行役、記録役、発表役を各一人決める。
2 語り合いの 約束を確認 する	<ul style="list-style-type: none"> ○語り合いに入る前に、約束を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ここだけの話にする。(個人情報に関することについて) ・相手の考えを頭ごなしに否定しない。・自分だけが長く話しすぎない。 ・発言を強要しない。
3 事例に取り 組み一マに ついて知る	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの上段を読み、話し合いの方向性を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題に対して保護者のできることを考えていくことを共通理解する。 ○事例への対応の仕方を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担しながら事例を、声を出して読みあう。 ・家に帰った後の声かけを事例の下の空欄に書く。 ・書いたことを交流し合い、多様な考えに共感し合う。
4 語り合い 活動	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が実際に関わった子どものトラブルを子どもの親との関わりという視点でワークシート1に書き、グループ内で伝え合う。 ・ファシリテーターがまず、ねらいこそった(親のかかわりで子どもの思いやりを育てる)事例を出し、話しやすい雰囲気づくりに努める。 ・トラブルについてであるため可能な範囲で語ってもらえるように促す。 ○話し合いから気づいたことや参考になったことを記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕があれば、数人に発表してもらおう。
5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○語り合いのまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・右ページの資料や他の保護者の意見などを例示し、トラブルの背景を理解すること、子どもの思いに共感することの大切さなどを確認する。
6 ふりかえり	○話し合った内容をふりかえり、互いにお礼を言って話し合いを閉じる。

【参考資料】

◇小学校入学に向けて／小学校生活での気がかり

※複数回答



対象：年中児（4歳児）から年長児（5歳児）をもつ母親 1,074名

【第1回「幼児期から小学1年生の家庭教育調査(ベネッセ教育総合研究所2012)】

◇詩「子どもは親の鏡」

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
 とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる
 不安な気持ちで育つと、子どもも不安になる
 「かわいい子だ」と言って育つと、子どもは、みじめな気持ちになる
 子どもを馬鹿にすると、引つ込みじあんな子になる
 親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
 叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
 励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
 広い心で接すれば、キレる子にはならない
 褒めてあげれば、子どもは明るい子に育つ
 愛してあげれば、子どもは自分が好きになる
 認めてあげれば、子どもは自分が好きになる
 見つめてあげれば、子どもは、元張り屋になる
 分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
 親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
 子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
 やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
 守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
 和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

【「子どもが育つ魔法の言葉」ドロシー・ロー・ノルト】